



決め手は、青森県産。

結集!! 青森力

## 中南管内の農林水産業の概要



りんごと岩木山

令和3年4月

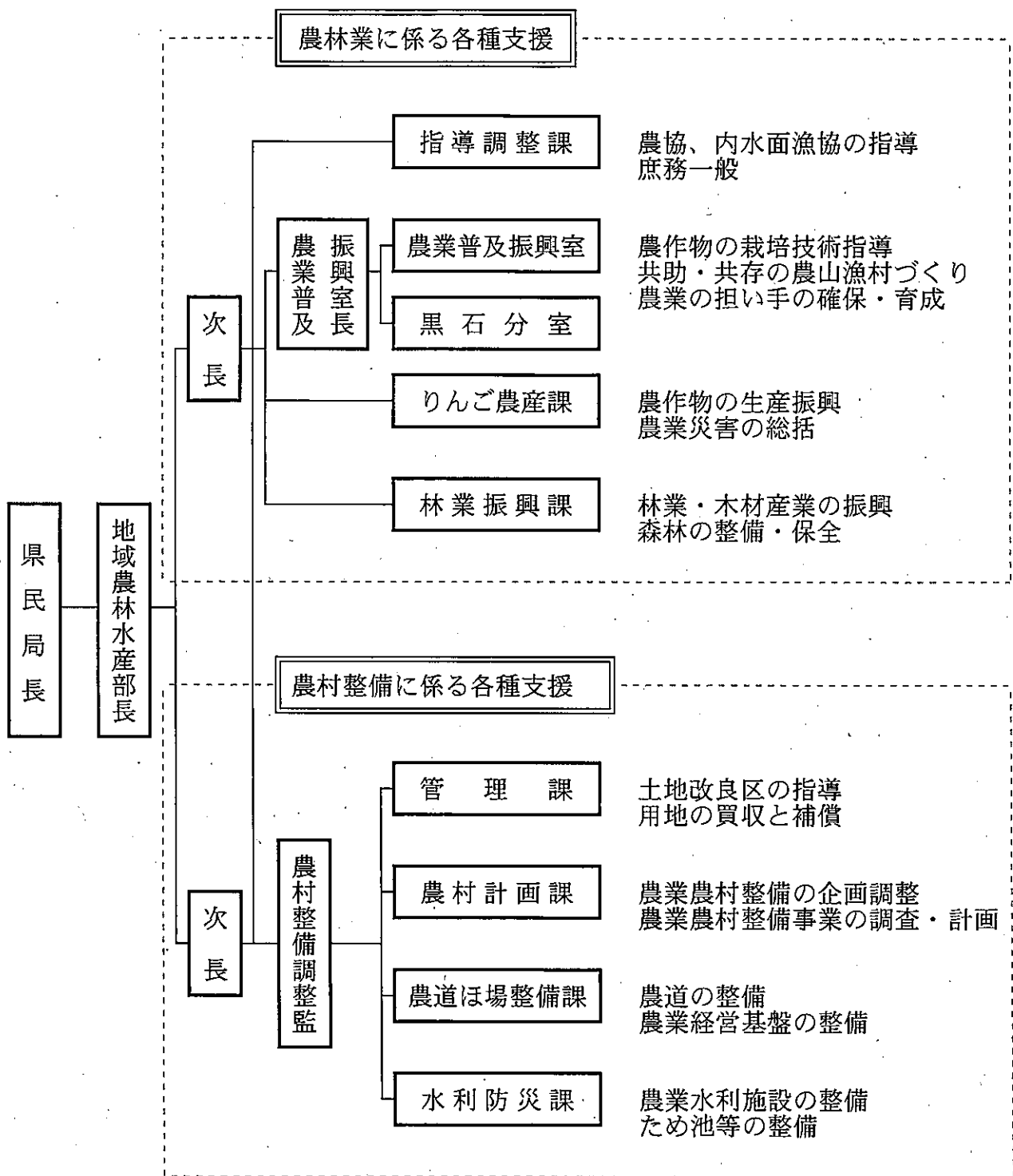
中南地域県民局地域農林水産部



# — 目 次 —

中南地域県民局地域農林水産部組織図 .....	1
管内図 .....	2
I 地域の概況 .....	3
II 中南の農林水産業の概要	
1 農業構造 .....	4
2 農業生産 .....	7
3 林業 .....	13
4 農村整備 .....	16

# 中南地域県民局地域農林水産部 組織図



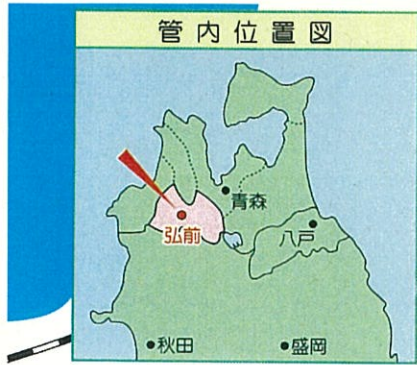
## 中南地域県民局地域農林水産部

〒036-8345  
 弘前市大字蔵主町4 (合庁)  
 TEL 0172-32-1131 (代表)  
 FAX 0172-32-8544

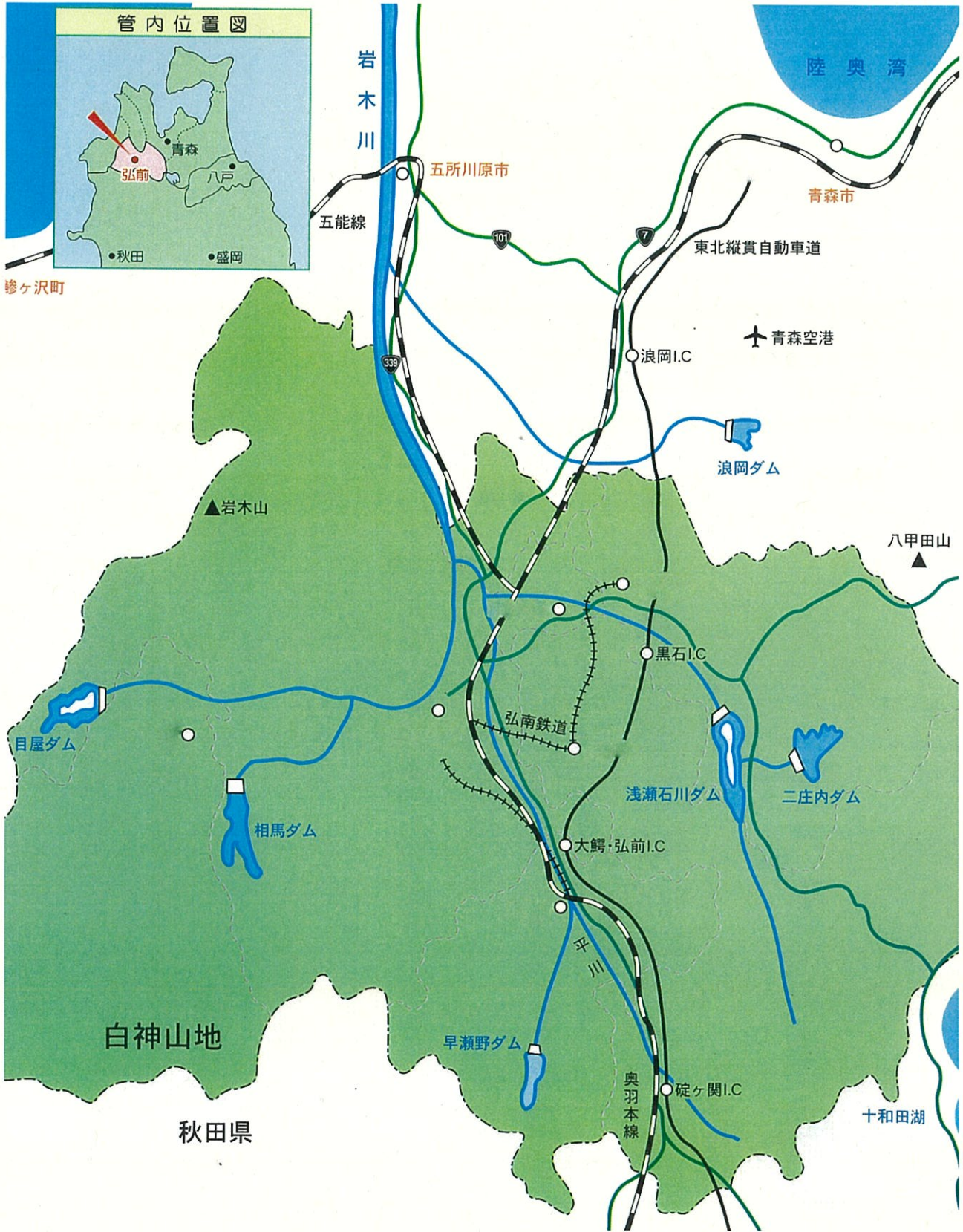
## 黒石分室

〒036-0522  
 黒石市田中82-9 (農林総合研究所)  
 TEL 0172-52-4335  
 FAX 0172-53-4114

# 中南地域県民局 管内図



碓ヶ沢町



# I 地域の概況

## 1 位置・面積

中南地域は本県の南西部に位置し、弘前市、黒石市、平川市、中津軽郡の西目屋村、南津軽郡の藤崎町、大鰐町、田舎館村の3市2町2村で構成されている。

総面積は1,556km<sup>2</sup>で県全体(9,645km<sup>2</sup>)の16%、人口は約26万6千人と県全体(1,244千人)の21%を占めている。

## 2 自然的条件

地勢は、西部に岩木山、東部に八甲田連峰がそびえ、南部には白神山地を擁し、岩木川、平川、浅瀬石川に沿って肥沃な平野が南北に開けている。

冬は北西の季節風が強く積雪量も多いものの、ヤマセの影響が少なく、全国有数の豪雪地帯である本県の中にあっては比較的温暖な地域である。

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均気温(°C)	-1.8	-1.3	1.9	8.5	13.8	17.9	21.7	23.5	18.9	12.5	6.1	0.9	10.2
日照時間(hr)	57.0	78.5	126.1	183.3	201.4	170.5	160.8	181.8	146.2	141.4	89.1	58.0	1,597.5
降水量(mm)	120.7	94.5	77.4	59.4	71.8	69.6	113.1	132.1	127.2	90.5	110.0	116.8	1,183.1
降雨日数(日)	21.8	17.9	17.5	12.4	10.2	10.0	10.6	11.5	11.6	15.2	17.2	23.6	179.5

※ 平均気温、日照時間、降水量はアメダスの平年値、

降雨日数はアメダスの0.5mm以上の降雨があった日数の平成21～平成30年の10か年の平均

## 3 社会・経済的条件

基幹道路として国道7号線が奥羽本線と並進しているほか、国道102号が弘前から十和田湖方面へ連絡し、地域の東部と東北縦貫自動車道が南北に走っている。

本地域の交通は、JR東日本の奥羽本線が南北に、五能線が弘前から川部を経て北西に走り、また、弘南鉄道が運行されている。

地域経済は、津軽藩10万石の城下町として発展した弘前市が中心となっており、また、国立弘前大学のほかに私立の大学・短大・専門学校などの高等研究機関、弘前大学医学部附属病院を始めとした医療機関、青森県産業技術センター弘前地域研究所、同農林総合研究所、りんご研究所などの試験研究機関が集積している。

## II 中南の農林水産業の概要

中南地域は、山沿いにりんご園、平野部を中心に水田が広がり、りんごと米の生産が盛んな本県の主要農業地帯である。

作付面積は、りんごが県全体の66%を、また、米が県全体の20%を占め、八甲田山系の山間部では夏も涼しい気候を利用し、高冷地野菜の栽培が盛んである。

### 1 農業構造

#### (1) 農家戸数と基幹的農業従事者数（平成27年）

当管内の総農家戸数（販売農家）は11,317戸で、県全体の32%を占める。うち専業農家が39%、第一種兼業農家が23%、第二種兼業農家が38%となっている。

主に農業に従事している基幹的農業従事者は、平成27年では管内で20,263人と県全体の35%を占めるが、約4分の1が75歳以上と高齢化が進展している。

管内市町村別の総農家戸数と基幹的農業専従者数

市町村	総農家戸数(戸)					基幹的農業従事者		
	計	専業	兼業			人数(人)	平均年齢(歳)	75歳以上の数(同比率)
			小計	第1種	第2種			
弘前市	5,719	2,529	3,190	1,411	1,779	11,217	62.9	2,526 (23%)
黒石市	1,326	419	907	326	581	2,171	63.9	507 (23%)
平川市	2,104	696	1,408	420	988	3,322	64.4	828 (25%)
西目屋村	105	29	76	22	54	155	69.2	56 (36%)
藤崎町	1,047	412	635	237	398	1,779	63.5	430 (24%)
大鰐町	460	173	287	94	193	801	65.4	212 (26%)
田舎館村	556	139	417	100	317	818	65.7	216 (26%)
中南計	11,317	4,397	6,920	2,610	4,310	20,263	-	4,775 (24%)
青森県	34,866	13,309	21,557	7,341	14,216	58,222	64.3	13,864 (24%)

(平成27年 農林業センサス)

各市町村の専兼別農家数



(2) 担い手

ア 認定農業者

中南管内における認定数は平成27年度まで増加傾向であったが、28年度から減少傾向が続いている。

年度 市町村	H26	H27	H28	H29	H30	R元
弘前市	1,220	1,257	1,109	1,044	1,040	1,013
黒石市	349	377	353	335	325	299
平川市	419	421	401	394	385	372
西目屋村	31	31	32	32	31	31
藤崎町	238	243	235	231	229	227
大鰐町	120	121	120	124	126	125
田舎館村	96	111	108	111	109	115
合計①	2,473	2,561	2,358	2,271	2,245	2,182
県計②	9,722	10,504	10,004	9,821	9,766	9,493
中南割合 ①/②	25.4	24.4	23.6	23.1	23.0	23.0

(農業普及振興室調べ)

イ 集落営農組織

令和元年度の中南管内における集落営農組織数は48組織で、近年はほぼ横ばいであり、県全体に占める比率は約33%となっている。

年度 市町村	H19		H29		H30		R元	
		うち法人		うち法人		うち法人		うち法人
弘前市	10	3	25	10	24	10	24	10
黒石市	2	1	3	2	3	2	3	2
平川市	8	2	10	3	10	3	10	3
西目屋村	0	0	4	1	4	1	4	1
藤崎町	2	2	3	2	3	2	3	2
大鰐町	0	0	1	1	1	1	1	1
田舎館村	3	0	3	2	3	2	3	2
合計①	25	8	49	21	48	21	48	21
県計②	103	14	149	60	149	62	145	63
中南割合 ①/②	24	57	33	35	32	34	33	33

(県構造政策課)

### (3) 耕地面積

平成30年の管内の耕地面積は28,868haで、県全体の19%を占めており、5年前より2.2%減少しているものの、減少率は県の3.1%より少ない。

#### ○ 市町村別耕地面積 (H30年)

(単位：ha、%)

市町村	田	畑	計
弘前市	4,230	9,900	14,130
黒石市	1,680	1,950	3,630
平川市	2,510	2,640	5,150
西目屋村	189	206	395
藤崎町	1,670	863	2,533
大鰐町	392	1,190	1,582
田舎館村	1,150	298	1,448
合計①	11,821	17,047	28,868
県計②	79,800	71,200	151,000
中南割合 ①/②	14.8	23.9	19.1

(農林水産統計)

#### ○ 耕地面積の推移

(単位：ha、%)

年次	H25 ①	H30 ②	増減率 ②/①
中 南	29,516	28,868	△ 2.2
県 計	155,900	151,000	△ 3.1

(農林水産統計)

### (4) 農業産出額

市町村別農業産出額は、弘前市が430億円で最も多く、次いで平川市、黒石市となっており、作物別ではりんごなどの果実が543億円で最も多くなっている。

また、管内全体の農業産出額は755億円で、県計の23%を占めている。

#### ○ 平成30年市町村別農業産出額 (推計)

(単位：億円、%、%)

市町村名	米	野菜	果実	花き	畜産	合計
弘前市	37.6	25.2	357.6	1.1	1.3	429.8
黒石市	15.7	10.8	51.7	1.5	6.7	87.2
平川市	22.5	19.3	68.0	1.2	4.5	117.1
西目屋村	1.1	0.5	2.9	x	-	4.6
藤崎町	16.3	7.8	34.1	0.5	5.1	64.4
大鰐町	2.2	3.6	21.8	x	0.1	28.1
田舎館村	11.0	4.7	7.3	0.6	0.0	23.8
合計①	106.4	71.9	543.4	4.9	17.7	755.0
県計②	553	836	828	20	905	3,222
中南割合 ①/②	19.2	8.6	65.6	24.5	2.0	23.4

(農林水産統計)



## 2 農業生産

### (1) 果樹

#### ア りんご

りんごの栽培面積は13,437ha（全県の約66%）で減少傾向にある。

わい化栽培面積は増加しており、栽培面積割合は22.9%となっている。なお、一部園地では10aあたり300本前後の高密植栽培も導入されてきた。

品種別には「ふじ」が最も多く、次いで「つがる」、「王林」、「ジョナゴールド」となっており、近年は、有袋果の割合が減少し、黄色品種や新品種の導入が進んできている。

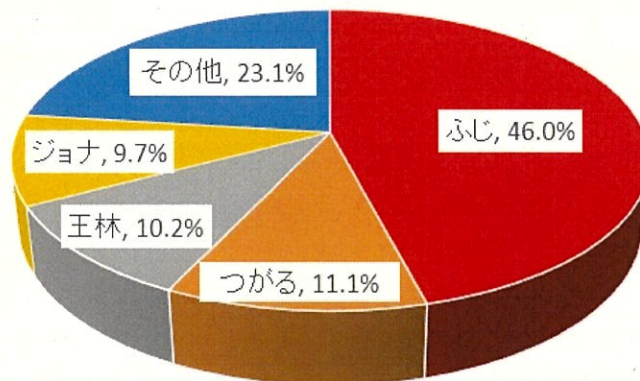
#### ○ りんご栽培面積及びわい化栽培面積

（単位：ha、%）

区 分	りんご栽培面積			わい化栽培面積		
	H20	H25	R 1	H20	H25	R 1
中南管内計①	14,552	13,852	13,437	2,810	3,046	3,071
県 計②	21,841	20,982	20,476	4,491	4,816	4,926
中南割合①/②	66.5	66.0	65.6	62.6	63.3	62.4

（りんご果樹課調べ（属人））

中南管内品種構成(R1結果樹面積)



りんごわい化園（平川市）の栽培状況



「有袋ふじ」

イ 特産果樹

特産果樹は、ぶどう、もも、おうとう、西洋なしなどが栽培されている。

中でも、ももの栽培面積は、平成20年産に比べ1.5倍以上の伸びを示し、産地化が進んでいる。ぶどうの面積は減少しているが、消費者ニーズの高い「シャインマスカット」の面積が増加している。

○ 主要特産果樹の栽培面積

(単位：h a)

市 町 村	ぶどう		うちシャインマスカット		もも		おうとう		西洋なし	
	H26	R 1	H26	R 1	H26	R 1	H26	R 1	H26	R 1
弘 前 市	30	29	0	2	11	27	16	16	11	13
黒 石 市	32	32	0	1	6	5	3	3	1	3
平 川 市	33	34	0	0	16	26	6	6	7	8
藤 崎 町	19	19	0	0	2	2	2	2	1	1
大 鰐 町	6	6	0	0	2	3	0	0	3	3
西 目 屋 村	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1
田 舎 館 村	4	5	0	0	3	3	0	0	0	0
合 計	124	126	0	4	41	67	27	27	24	29

(特産果樹動態等調査：りんご果樹課)



「シャインマスカット」



もも「川中島白桃」の斜立主幹形

(2) 水稲

中南地域は県内一の良質米地帯であり、水稲の作付面積は8,702haで県全体の19.3%を占めており、うち、「まっしぐら」が約5割作付けされている。「青天の霹靂」は参考品種を含め7年連続で「特A」評価を取得しており、中南地域が県内で最も多く作付されている。

表3-1 令和2年産水稲作付状況等 (単位:ha、t)

市町村名	作付面積	収穫量
弘前市	3,030	19,100
西目屋村	92	546
黒石市	1,270	7,910
平川市	1,860	11,700
藤崎町	1,350	8,290
大鰐町	184	1,080
田舎館村	916	5,730
合計 (県に占める割合)	8,702 (19.3%)	54,356 (19.1%)
県計	45,200	283,900

表3-2 令和2年産の品種別面積

(単位:ha、%)

項目 品種	中南		青森県	
	作付面積	構成比	作付面積	構成比
まっしぐら	4,307	49.5	34,578	76.5
つがるロマーン	3,176	36.5	7,948	17.6
青天の霹靂	1,014	11.7	1,615	3.6
その他の	205	2.3	1,059	2.3
計	8,702		45,200	

※作付面積は県による種子申込量等からの推定



「青天の霹靂」の田植え

(3) 畑作

転作作物として大豆、小麦、そばが作付けされている。

令和2年の大豆栽培面積は948haで、品種は全て「おおすず」、小麦の栽培面積は60haで品種は全て「ゆきちから」となっている。

そばの栽培面積は57haで、西目屋村などで「キタワセソバ」が作付けされている。

表4 令和2年産市町村別作付面積(単位：ha)

市町村名	大豆	小麦	そば
弘前市	569.8	25.4	
黒石市		33.2	14.6
平川市	142.2		
藤崎町	122.6		
大鰐町	35.3		
田舎館村	59.4	1.6	
西目屋村	18.5		41.9
合計	947.8	60.2	56.6

※農業普及振興室調べ



転作大豆

(4) 野菜

平川市と黒石市の南八甲田高冷地では、だいこん、にんじん、レタス等、弘前市岩木山麓では、スイートコーン、弘前市、平川市、大鰐町の平地では、夏秋トマト、ミニトマトの産地が形成されている。

「夏秋トマト」、「夏だいこん」、「秋にんじん」、「夏秋レタス」は、消費地への安定出荷を図るための産地指定を受けている。

近年は、新規就農者等の増加により、ミニトマトの生産が増えている。

また、「嶽きみ」(スイートコーン)は地域団体商標を、藤崎町常盤地区のにんにくは「常盤」で商標を取得し、令和2年に「清水森ナンバ」が地理的表示(GI)を取得した。



にんじんの収穫風景

表5 市町村別作付面積(令和2年産)

(単位：ha)

市町村名	トマト	ミニトマト	レタス	アスパラ	ほねぼう	にんにく	だいこん	にんじん	スイートコーン
弘前市	5.3	2.6	7.8	3.5	7.2	22.4	18.2	6.1	150.0
黒石市	6.9	0.4	10.0	7.4	1.2	—	61.2	13.0	—
平川市	4.8	12.0	8.1	3.3	2.6	1.0	38.7	53.3	0.1
藤崎町	1.3	1.0	—	8.3	—	83.3	—	—	—
大鰐町	5.2	3.2	—	0.4	—	—	—	—	—
田舎館村	3.7	3.7	—	7.2	—	—	—	—	—
西目屋村	—	0.1	—	—	—	3.3	—	—	—
合計	27.3	22.8	25.9	30.0	11.2	109.9	118.1	72.3	150.1

※農業普及振興室調べ

ラウンドのため合計は一致しない

(5) 花き

管内の主な品目は、アルストロメリア、トルコギキョウ、ヒマワリ、キク等の切り花に加え、ケイオウザクラ等の枝物となっている。

花きの作付面積は、国内需要の低迷や労働力不足等の影響により、面積・産出額ともに減少傾向にある。

表6 令和元年産花きの作付面積、産出額

市町村等	作付面積 (a)						産出額 (千円)	主たる品目
	計	切り花類	鉢物類	苗物類	球根類	花木類		
弘前市	1,168	923	197	48	0	0	164,205	ケイオウザクラ、トルコギキョウ
黒石市	56	26	30	0	0	0	9,446	トルコギキョウ、鉢もの
平川市	466	462	0	5	0	0	49,115	トルコギキョウ、キク
藤崎町	397	272	0	0	0	125	119,293	アルストロメリア
大鰐町	49	49	0	0	0	0	2,839	小ギク
西目屋村	45	45	0	0	0	0	630	リンドウ
田舎館村	536	404	132	0	0	0	85,682	バラ、トルコギキョウ、ヒマワリ
中南計	2,717	2,180	359	53	0	125	431,211	
県に占める割合 (%)	29.3	33.0	40.4	13.3	0.0	77.2	33.0	
県計	9,274	6,608	889	400	810	162	1,306,000	

※農産園芸課調べ



アルストロメリア



ケイオウザクラ

## (6) 畜産

管内の畜産業は、飼養農家数・頭羽数とも全県に占める割合が3%以下と少ないが、家畜排せつ物を活用した堆肥の供給元として、土づくりを基本とした環境にやさしい農業に役立っている。

### ○ 家畜飼養頭羽数

(単位：頭、羽、%)

区分	中南			県計	中南割合
	H27 ①	R 2 ②	増減 ①/②	R 2 ③	②/③
乳用牛	160	150	△ 6.3	12,900	1.2
肉用牛	980	310	△ 68.4	56,800	0.5
豚	9,190	10,100	9.9	385,400	2.6
採卵鶏	238,880	222,300	△ 6.9	7,762,300	2.9

(県畜産課調べ)

#### ア 乳用牛

弘前市内の酪農家が萩原乳業株式会社(弘前市)に生乳を納入し、県産牛乳生産の一翼を担っているほか、弘前市内のりんご加工会社や嶽きみ農家と提携し、りんご粕やとうもろこしの葉、茎等の飼料としての利用によりコストの低減に努めている。

#### イ 肉用牛

大規模肥育農家の離農等のため、5年前より飼養頭数が約7割減少した。

黒毛和種の繁殖及び一貫経営があり、一貫経営では県事業を活用した黒毛和種の改良を進めているほか、平川市の津根川森放牧場では、管外からの受入も実施しており、人工授精や種雄牛による自然交配による繁殖牛の受胎率向上に向けた取組が行われている。



津根川森放牧場での放牧状況

#### ウ 養豚

管内7農場のうち弘前市の岩木山麓に3農場が集中しており、多頭化による経営コスト低減に努めている。

#### エ 養鶏

(ア) 採卵鶏は、黒石市、平川市、藤崎町を中心に飼養され、良質な鶏卵が生産されている。特に、藤崎町では飼料用米を給与した飼料自給率の高い鶏卵「こめたま」が生産され、もみ殻と鶏ふんの堆肥を活用した循環型農業の取組も進められている。

(イ) 肉用鶏では、大鰐町に特産地鶏「青森シャモロック」の指定生産農場があり、県内の他農場と連携し、ブランド化に向けた取組がなされている。

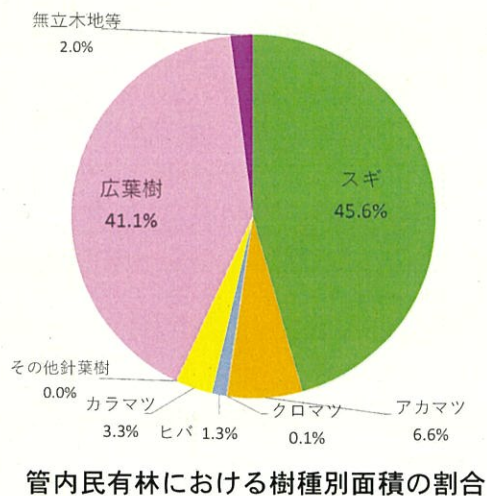
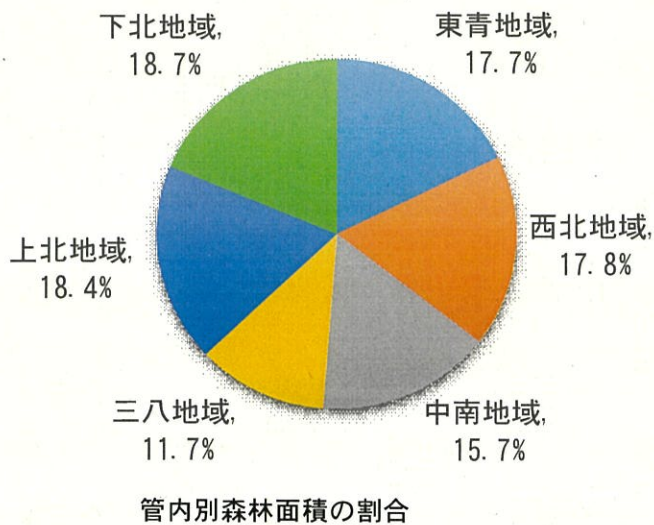
### 3 林業

#### (1) 森林資源の状況

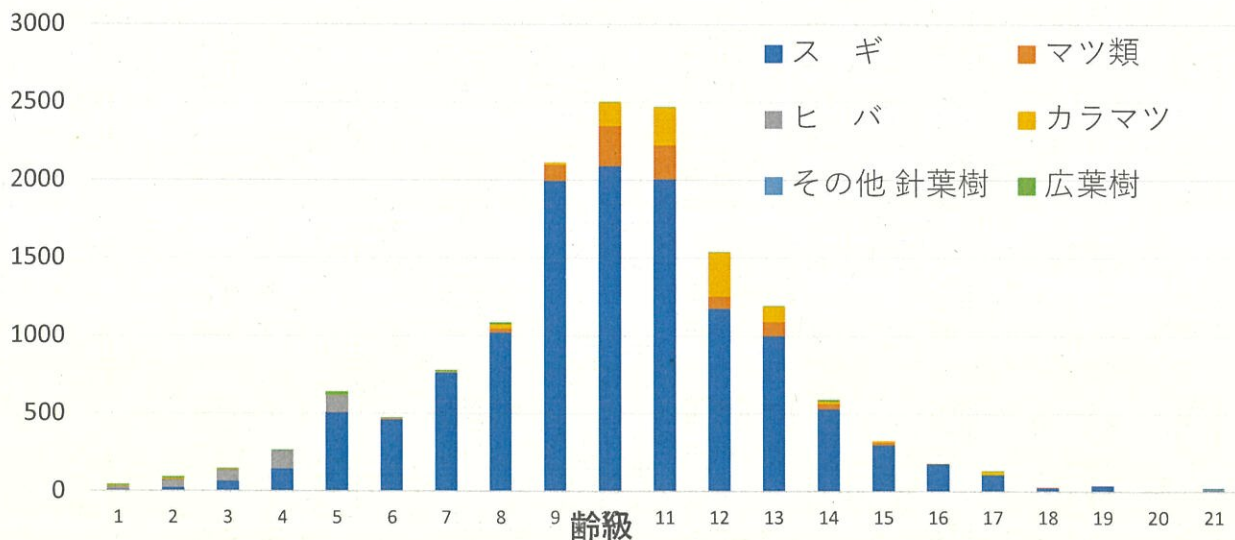
当管内の森林面積は、99,409haで、県全体の15.7%を占めている。

うち、管内民有林は27,328haで、その樹種別面積の割合を見ると、スギと広葉樹で約87%と大半を占めている。

人工林の樹種別年齢構成を見ると、10から11年齢級（46年生から55年生）で蓄積が最も多く、森林資源として本格的な利用が可能となる段階を迎えている。



面積：h a



管内民有林における人工林の樹種別年齢構成

青森県森林資源統計書（令和3年4月）より

## (2) 森林の整備・保全

地球温暖化の防止に向けた森林吸収源対策のほか、水源のかん養や土砂流出防備などの県土保全のため、間伐の推進による森林整備や治山事業による森林の保全対策を積極的に進めている。

また、令和2年8月に初めてナラ枯れ被害が確認されたことから、防除を徹底するとともに、監視を強化し被害の拡大防止に努めている。

さらには、所有者自ら経営することが難しい森林について、市町村が森林所有者から経営管理の委託を受ける「森林経営管理制度」が令和元年度から始まったことから、その円滑な運用で森林整備が進むよう市町村への助言・指導を行っている。

### ア 森林整備事業

森林の持つ多面的機能を持続的に発揮しながら、安定した木材生産を行うため、造林、保育、間伐等の森林整備を推進している。

50年生前後のスギ林が多い人工林資源については、利用しながら手入れを行う搬出間伐を進めており、令和2年度は約330ha実施した。



スギ人工林の間伐実施状況

### イ 林道事業

木材などの林業生産物の運搬や森林整備の実施、山村集落間の生活道や災害避難路としての役割を担う林道の整備を行っている。

令和2年度は、弘前市で3路線（国庫補助2、県単1路線）、大鰐町で1路線（県単）、西目屋村で1路線（県単）を実施した。



林道を利用した木材の搬出

### ウ 治山事業

豪雨や地震、台風などによる山地災害を未然に防止し、被害を最小限にとどめるために治山事業を推進している。

また、工事では間伐材を積極的に利用するなど自然環境に配慮した工種・工法に取り組んでいる。

令和2年度は、弘前市、黒石市、平川市、大鰐町において、林地崩壊箇所を復旧する山腹工事や荒廃溪流の土砂流出を防止する治山ダム工事のほか、地すべり防止工事を実施した。



アンカー工で施工した山腹工

### エ ナラ枯れ被害防止対策

平成22年に深浦町で初めて被害が確認されたナラ枯れが、令和2年に弘前市と西目屋村でも被害が確認されました。

地上や上空からの監視を強化し、被害木を発見した際には伐採しくん蒸処理し被害の拡大防止に努めた。



被害木の伐倒しくん蒸処理



### (3) 林業・木材産業の振興

充実する管内人工林資源の循環利用を進めるため、県産材の低コスト生産や需要拡大を川上から川下で一体的に推進している。

#### ア 高性能林業機械による効率的な間伐の推進

ハーベスタやフォワーダなどの高性能林業機械の導入を進めるとともに、施業地の団地化により、効率的な搬出間伐による生産コストの低減を図っている。

これにより、間伐材の販売収入による森林所有者の負担軽減が図られ、間伐の一層の推進が期待されている。



高性能林業機械による県産材の生産

#### イ 「TSUGARUうるし」の森づくりの推進

国産漆の需要が急増する中で津軽塗産業等へ漆を安定供給するため、「TSUGARUうるし」の造成を進めている。

令和2年度は、地域に適した育成方法等を検証するモデル実証林を管内に3箇所設定したほか、ウルシ林の造成から漆生産までに必要な施業技術を学ぶ研修会や苗木生産に関する実践的な講習会を開催した。

また、苗木の需給調整や資源管理等を目的とした苗木登録制度の創設に向け、関係機関による連絡会議を開催した。



モデル実証林の設定

#### ウ 県産材利用の推進

県産材の多目的利用を推進するため、管内の大工・工務店、林業関係者等で構成する「青森スギで家を建てる中南地域会」への活動支援による県産材住宅の普及活動や、森林土木事業による積極的な利用に取り組んでいる。

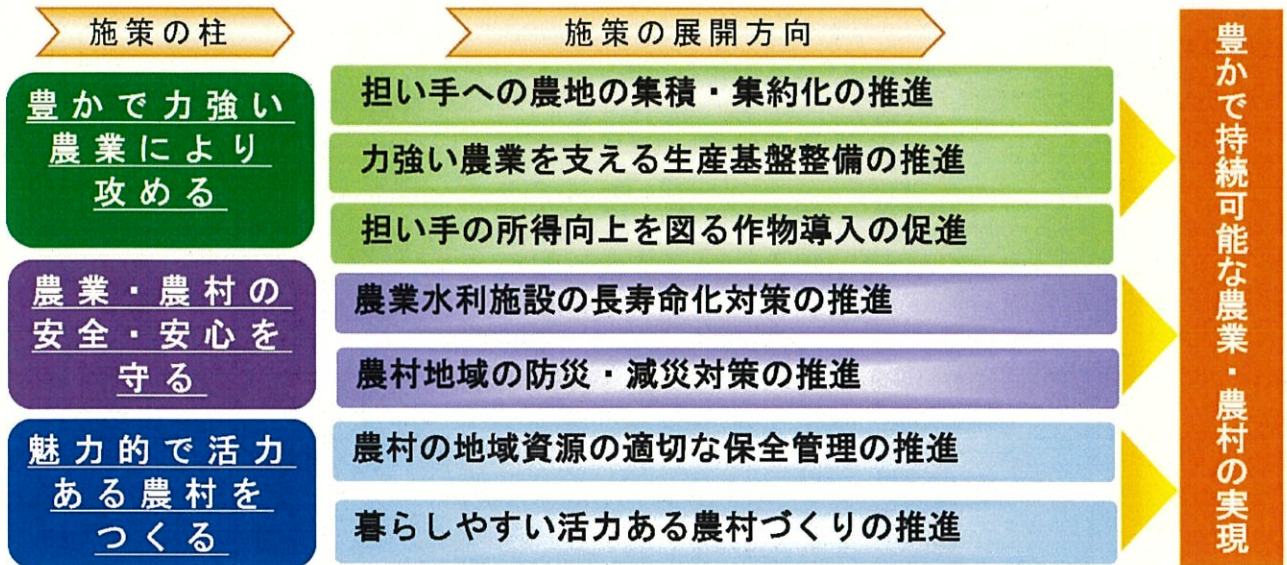
また、薪ボイラーの導入・活用によるエネルギー利用や木製玩具を活用した「木育」の活動も積極的に行われている。



県産材の玩具で木に親しむ木育

#### 4 農村整備

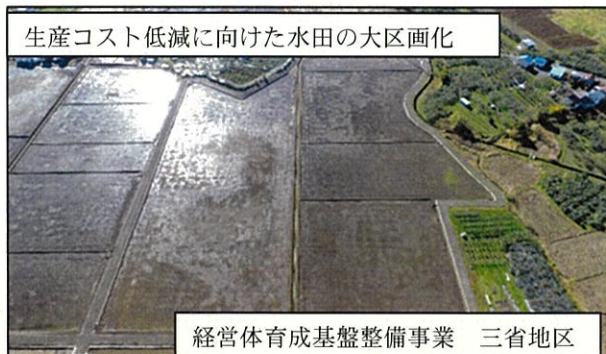
農業農村整備は、「攻めの農林水産業」の強力かつ着実な推進に資するため、「豊かで力強い農業で攻める」、「農業・農村の安全・安心を守る」、「魅力的で活力ある農村をつくる」の3つの柱に基づき施策を展開し、「豊かで持続可能な農業・農村の実現」を目指している。



##### (1) 「豊かで力強い農業により攻める」

管内の水田は、11,780haのうち98%が整備されているものの、30a未満の小区画水田が24%となっていることから、担い手への農地集積・集約化を加速させるとともに、水田の汎用化・畑地化を推進するため、ほ場整備を計画的に推進している。

また、高品質な野菜・果樹の生産拡大や農産物の輸送の効率化を図るため、畑地かんがい施設や農道の整備を推進している。



《水田の整備状況》単位：ha

地域	水田面積	令和元年度までの整備済面積			未整備面積	
		30a区画以上	30a区画未満			
中南	11,780	11,517 (98%)	8,673 (74%)	2,845 (24%)	263 (2%)	
県全体	79,600	68,370 (86%)	53,718 (68%)	14,652 (18%)	11,272 (14%)	

注) 1 整備済面積は、平成29年度までの「東北農政局調べ」面積に、平成30年及び令和元年の整備面積を合算したものである。

2 表中の( )書きは整備率を示す。

3 水田面積は「耕地及び作物面積統計」(農林水産省)による。

4 数値は四捨五入しており、計が一致しないことがある。

## (2) 「農業・農村の安全・安心を守る」

管内の農業水利施設の多くは、昭和 30～40 年度に整備されており、耐用年数の超過や老朽化の進行により農業用水の安定供給に支障をきたしているため、機能保全計画の策定とそれに基づく適期の予防保全対策を実施し、農業水利施設の長寿命化を計画的に推進している。

また、自然災害から農村地域の住民の生命・財産を守るとともに、県土を保全し、安全・安心な農村づくりのため、ため池等の整備や地すべり防止対策の実施などの農村の防災減災対策を推進している。



## (3) 「魅力的で活力ある農村をつくる」

### ア 農村の地域資源の適切な保全管理の推進

農業者や地域住民等の多様な主体で構成された活動組織が行う農地法面の草刈りや農業用排水路の泥上げ、りんご樹園地周辺の農道の除排雪などの地域資源の基礎的保全活動を多面的機能支払交付金により支援している。

また、中山間地域等においては、高齢化が進む中で平地と比べ自然的・経済的・社会的条件が不利であることから、農業生産や多面的機能の維持につながる取組を行っている農業者等に対し、中山間地域等直接支払交付金により支援している。

中南管内では、多面的機能支払交付金に 7 市町村 107 組織が、中山間地域等直接支払交付金に 5 市町村 98 組織がそれぞれの地域で多様な活動を展開している。

《組織の活動状況》



《多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金の取組状況》

市町村	多面的機能支払交付金		中山間地域等直接支払交付金		備 考
	組織数	取組面積 (ha)	協定数	取組面積 (ha)	
弘前市	33	2,526	44	964	
黒石市	14	759	17	342	
平川市	32	1,971	16	1,061	
西目屋村	3<1>	209	5	179	◇は弘前市に跨る組織で外数
藤崎町	16	1,663	—	—	
大鱈町	2	28	16	493	
田舎館村	7	542	—	—	
管内計	107	7,698	98	3,039	
県全体	463	43,638	442	8,709	

注) 各交付金の組織数、協定数、取組面積は令和3年2月末時点のもの。

イ 暮らしやすい活力ある農村づくりの推進

生活基盤の機能も併せ持つ農道等の機能維持や農業集落排水施設の点検診断等を適切に行い、老朽化対策を効率的に推進している。

また、生態系の保全・再生に配慮した水路整備等により多面的機能の増進を図っている。

管内の農業集落排水処理施設は、令和2年度末時点で整備対象の35処理区すべてで供用されている。



《農業集落排水処理施設の整備状況》

(処理区)

市町村	整備対象地区	整備済地区	整備率	備考
弘前市	13	13	100.0%	
黒石市	1	1	100.0%	
平川市	7	7	100.0%	
西目屋村	5	5	100.0%	
藤崎町	8	8	100.0%	
大鱈町	—	—	—	
田舎館村	1	1	100.0%	
管内計	35	35	100.0%	
県全体	126	122	96.8%	未着手4処理区

注) 県農村整備課資料による。